

〈平成27年（2015年）基準〉

I 調査結果の概要

1 概況

平成30年の農産物価格指数（平成27年を100とする。以下同じ。）の総合価格指数（以下「総合」という。）は111.8で、前年に比べ3.0%上昇した。

また、農業生産資材価格指数（平成27年を100とする。以下同じ。）の総合は、100.7で、前年に比べ1.9%上昇した。

この結果、農業交易条件指数（農産物価格指数（総合）÷農業生産資材価格指数（総合）×100）は111.0となり、前年に比べ1.1%上昇した。農業交易条件指数は4年連続で上昇した。

図1 農産物価格指数の推移(平成27年=100)

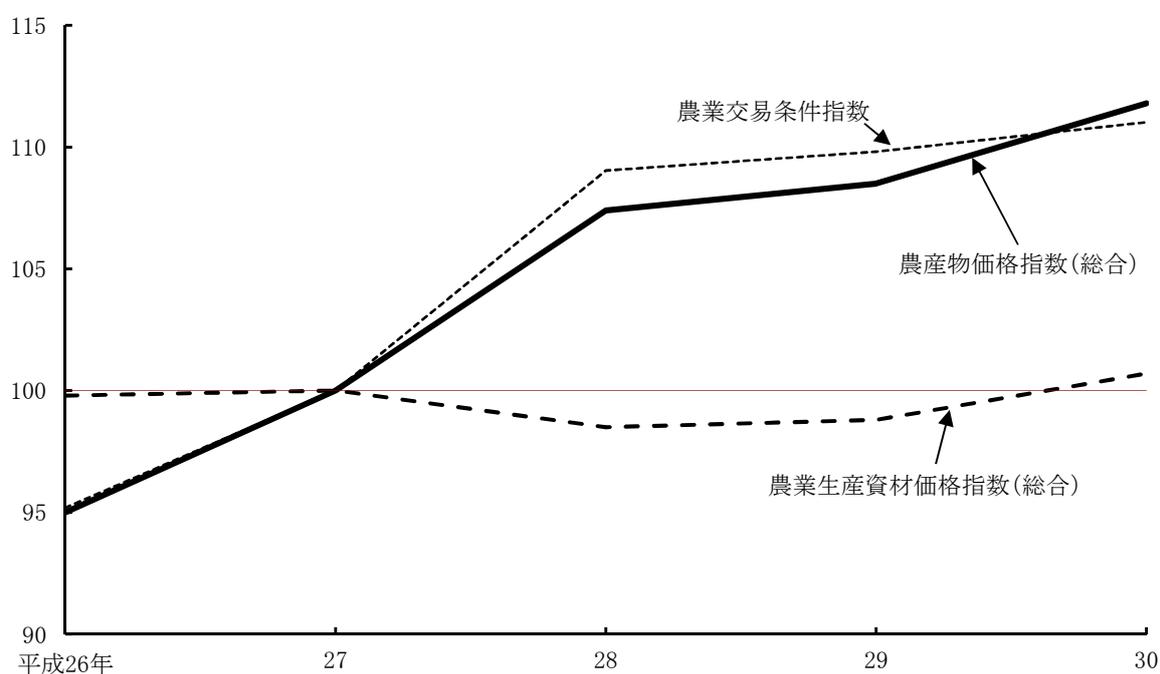


表1 農業交易条件指数の推移

平成27年=100						
区 分	平成26年	27	28	29	30	対前年 騰落率 (30/29)
農産物価格指数（総合）①	95.0	100.0	107.4	108.5	111.8	3.0
農業生産資材価格指数（総合）②	99.8	100.0	98.5	98.8	100.7	1.9
農業交易条件指数①÷②×100	95.2	100.0	109.0	109.8	111.0	1.1

2 農産物価格指数

農産物価格指数（総合）は111.8となり、前年に比べ3.0%上昇した。

これは、畜産物等の価格が低下したものの、米、野菜等の価格が上昇したことによる。主な類別の指数の動向についてみると、次のとおりである。

(1) 米は130.4で、前年に比べ6.4%上昇した。

これは、平成27年産以降、主食用米から他の作物への転換が進む等、需要に応じた生産の推進により3年連続で超過作付が解消され、民間在庫の水準が減少したこと等により、主食用米の価格が回復したことによる。

(2) 野菜は107.6で、前年に比べ6.9%上昇した。

これは、平成29年秋の台風被害やその後の低温に伴う生育不良の影響により、平成30年1～2月にキャベツ、はくさい、だいこん等の価格が高騰したこと等による。

(3) 果実は114.4で、前年に比べ3.4%上昇した。

これは、平成29年夏以降の天候不順や秋の台風等の影響により、りんご、みかん（普通温州）等の生産量が減少し、年明け以降に必要な在庫量が確保できなかったことから、価格が上昇したこと等による。

(4) 畜産物は103.7で、前年に比べ2.4%低下した。

これは、豚流行性下痢（PED）が沈静化し、生産量が増加傾向で推移する中で、肉豚価格が低下したこと等による。

表2 農産物の年次別価格指数及び対前年騰落率

平成27年=100

区 分	年次別価格指数					対前年騰落率					寄与度
	平成26年	27	28	29	30	平成26年	27	28	29	30	
農 産 物（総合）	95.0	100.0	107.4	108.5	111.8	△ 0.5	5.3	7.4	1.0	3.0	3.04
うち米	111.5	100.0	112.4	122.5	130.4	△12.4	△10.3	12.4	9.0	6.4	1.65
麦	96.8	100.0	97.2	114.4	142.6	0.9	3.3	△ 2.8	17.7	24.7	0.21
い も	79.1	100.0	108.8	94.2	85.4	6.3	26.4	8.8	△13.4	△ 9.3	△0.17
野 菜	88.6	100.0	107.8	100.7	107.6	△ 0.9	12.9	7.8	△ 6.6	6.9	1.64
果 実	88.5	100.0	110.2	110.6	114.4	△ 1.4	13.0	10.2	0.4	3.4	0.38
工芸農作物	109.0	100.0	98.5	110.2	102.8	0.9	△ 8.3	△ 1.5	11.9	△ 6.7	△0.16
花 き	92.4	100.0	103.7	101.5	103.8	△ 0.6	8.2	3.7	△ 2.1	2.3	0.11
畜 産 物	93.4	100.0	104.2	106.2	103.7	10.0	7.1	4.2	1.9	△ 2.4	△0.67
うち鶏 卵	95.9	100.0	92.8	94.0	85.4	11.5	4.3	△ 7.2	1.3	△ 9.1	△0.11
生 乳	96.0	100.0	101.5	103.0	103.7	5.4	4.2	1.5	1.5	0.7	0.08
肉 畜	94.8	100.0	99.2	101.9	96.3	13.5	5.5	△ 0.8	2.7	△ 5.5	△0.52
子 畜	84.5	100.0	123.1	125.2	122.6	12.8	18.3	23.1	1.7	△ 2.1	△0.11
成 畜	85.6	100.0	123.3	123.9	122.4	18.7	16.8	23.3	0.5	△ 1.2	△0.01

注：寄与度は、平成30年の農産物価格指数（総合）の対前年騰落率に対するものである。

3 農業生産資材価格指数

農業生産資材価格指数（総合）は100.7となり、前年に比べ1.9%上昇した。

これは、畜産用動物の価格が低下したものの、光熱動力、飼料等の価格が上昇したことによる。

主な類別の指数の動向についてみると、次のとおりである。

- (1) 畜産用動物は118.3で、前年に比べ2.4%低下した。

これは、平成28年まで高騰し続けた肉用子牛価格が、平成29年以降、生産基盤強化対策の実施等により繁殖基盤の回復基調がみられ、価格が落ち着いてきたことによる。

- (2) 肥料は94.3で、前年に比べ1.7%上昇した。

これは、原料価格や海上運賃の上昇等により、高度化成等の複合肥料の価格が上昇したことによる。

- (3) 飼料は96.1で、前年に比べ4.0%上昇した。

これは、原料価格や海上運賃の上昇等により、配合飼料価格が上昇したことによる。

- (4) 光熱動力は107.0で、前年に比べ11.8%上昇した。

これは、主要産油国における協調減産による供給減少等の影響により、平成30年10月まで原油相場が上昇傾向にあったことによる。

表3 農業生産資材の年次別価格指数及び対前年騰落率

平成27年=100

区 分	年次別価格指数					対前年騰落率					寄与度
	平成26年	27	28	29	30	平成26年	27	28	29	30	
農業生産資材（総合）	99.8	100.0	98.5	98.8	100.7	3.7	0.2	△ 1.5	0.3	1.9	1.92
うち種苗及び苗木	97.4	100.0	100.6	101.1	101.5	5.2	2.7	0.6	0.5	0.4	0.02
畜産用動物	87.5	100.0	118.0	121.2	118.3	12.5	14.3	18.0	2.7	△ 2.4	△0.17
肥 料	98.2	100.0	98.2	92.7	94.3	4.2	1.8	△ 1.8	△ 5.6	1.7	0.17
飼 料	98.6	100.0	93.1	92.4	96.1	2.5	1.4	△ 6.9	△ 0.8	4.0	0.72
農業薬剤	98.9	100.0	100.0	99.4	99.4	2.5	1.1	0.0	△ 0.6	0.0	0.00
光熱動力	117.8	100.0	86.5	95.7	107.0	5.5	△15.1	△13.5	10.6	11.8	1.04
農 機 具	99.5	100.0	100.2	100.2	100.3	2.3	0.5	0.2	0.0	0.1	0.02
賃借料及び料金	98.7	100.0	100.7	100.3	100.8	2.5	1.3	0.7	△ 0.4	0.5	0.05

注：寄与度は、平成30年の農業生産資材価格指数（総合）の対前年騰落率に対するものである。